

装備品として夜間の訓練や現場での消火活動を安全に行うことのできる照明器具と、個人装備としてのヘッドライトを整備することとしました。

整備については、大型照明器具を分団毎に1台、ヘッドライトは団員定数717名各自に支給することを目標として3年間で整備する計画としました。その計画によって、平成19年度は大型照明器具、ヘッドライトの安全装備品の申請を行い、さらに平成20年度もヘッドライトの申請を行った結果、消防基金からの決定を受けたので、町は2カ年に亘り安全装備品を整備することができました。これもひとえに消防基金の安全装備品等助成事業を知ったからにほかなりません。

3 安全装備品の使用前の状況と使用後の状況及びその効果

久万高原町管内における近年の消防団活動を見ると、火災出動は非常に少なくなってきました。反面、高齢者の行方不明に伴う捜索事例が頻発する傾向にあります。背景には、認知症高齢者の増加と核家族化による見守り者の減少があると考えられます。

夕方遅くなくても帰宅しないため、家人が捜すも発見できず捜索願に至るケースでは、人命優先・保護を考慮し夜間でも消防団員の出動を求めています。

夜間の消防活動で最も心配されるのが転倒や踏み外しなどによる公務災害の発生です。しかし、町が装備した大型照明器具やヘッドライト



整列（ヘッドライトを装着）



訓練会場での消防ポンプの説明

の性能は高く、消防団員の安全な活動とけが人の早期発見に役立つことになりました。

因みに、大型照明器具やヘッドライトを整備したことにより現在まで負傷したものは出てきていません。

4 今後に向けての取り組み

2カ年度に亘る安全装備品を整備する継続事業で、安全装備品の照明器具であるヘッドライ

トについては消防団員の70%に相当する494名に配備することができました。

今後、平成21年度以降についても当初の計画に基づき、ヘッドライトについても残り200個余りの整備と、好評であった大型照明器具を部毎に整備できるよう基金への要望とともに自主財源を確保し、安全装備品の充実を図り、消防団員の公務災害の防止を図りたいと考えています。